

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第83号

技術を受け継ぐ 漆刷毛製作

～がんばれ ジャパン 戻そう 日本の髪へ～

漆刷毛師とは

漆刷毛は人毛を主な原料とし、漆芸作品の制作や漆工芸修理の漆塗りに用いられる刷毛です。塗師(漆塗技術者)の好みに合わせて毛の部分の厚みや硬さなどを調整して作られており、多様な注文に応じて良質な漆刷毛を製作する技術を修得するには、長い経験を要します。漆刷毛は、漆芸の制作や修理の漆塗りの工程において、塗りの良否を左右する重要な用具であり、文化財の保存に欠くことができないものですが、現在、その製作技術者は全国でも数名のみとなっています。

漆刷毛のはじまりは江戸時代の明暦2年(1656)。江戸の八丁堀に住む仙台藩士が副業の刀の鞘塗りのために、人毛を使用し鉛筆のように削り出して使用する特殊な漆刷毛を考案したところ、江戸中の漆仲間の評判になり、仙台藩士をやめ漆刷毛師となりました。これが漆刷毛師泉清吉の誕生です。その後、代々にわたってその伝統技術を受け継ぎ、平成10年(1998)、九世 泉清吉が文化庁より選定保存技術保持者として認定を受けています。



▲九世 泉清吉



▲漆刷毛



▲漆刷毛で作された漆器

日本の髪 収集の危機

漆刷毛製作の江戸以来の伝統的な材料は日本人の人毛です。1960年代頃までは、漆刷毛の材料の人毛は「かもじ」や理・美容院からでてきた日本人の髪を使用していました。1970年代のオイルショックには、国産人毛の価格は高騰し、輸入される中国産の髪が出回るようになったため、併用するようになりました。現在は、漆刷毛に使用する人毛は95%が中国からの輸入になっています。地方にいけば、まだ使われなくなった「かもじ」が捨てられずにしまい込んであり、髪も自然と伸びてカットされますが、髪を収集しても仕事にはならず集まらないのです。

注) かもじ…女性が日本髪を結うときに、地髪が短くて結び上げられない場合に使用する添え髪。

黒毛の復活

漆刷毛に使用される人毛には赤毛と黒毛^{あかけ くろげ}という名称があります。赤毛は「数年間乾燥させて脂分を抜いた毛束」、黒毛は「乾燥させていない現代日本人の毛束」という意味です。元々希少だった黒毛の漆刷毛は、材料の減少によって自然消滅してしまいました。しかし、平成12年(2000年)に九世 泉清吉が現代の毛髪を塩素薬品不使用で脂分を抜く処理技法を新たに考案し、また親族の美容院の協力のもと材料の継続的な収集を成功させたことで、ついに消滅していた黒毛の漆刷毛を復活させました。さらに、「がんばれ ジャパン 戻ろう 日本の髪へ」というキャンペーンを展開し、漆刷毛の使い手から多くの賛同を得ました。現在では黒毛の漆刷毛は国宝修理にも使用されるようになりました。

漆刷毛ヘアドネーション

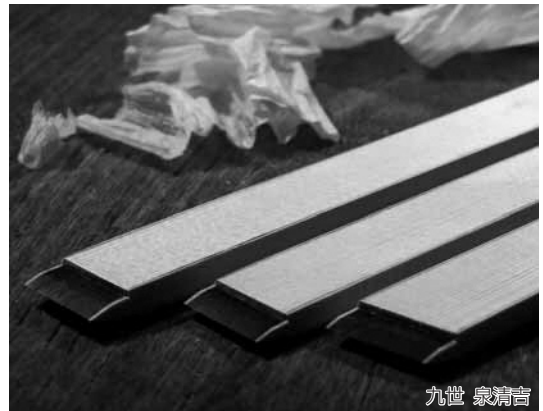
平成26年(2013)には「がんばれ ジャパン 戻ろう 日本の髪へ」のキャンペーンを進化させ、「漆刷毛ヘアドネーション」の活動を始めました。寄付可能な髪は、15cm以上あれば大丈夫！カラーリングしてあっても大丈夫！デジタルパーマも大丈夫！ゆるいパーマも大丈夫！ブリーチも大丈夫！白髪交じりも大丈夫！ということでウェブサイトでの寄付の受付や、テレビ出演をきっかけに多くの反響を呼んでいます。現在、月に約100件の髪の寄付を受けており、寄付する方は徐々に増えてきている状況です。この「漆刷毛ヘアドネーション」によって、日本人の髪による漆刷毛製作が少しずつ復活しているのです。



▲かもじ(日本人毛)



▲中国産人毛



▲九世 泉清吉がつくる黒毛の漆刷毛



▲ヘアドネーションで寄付された髪

TOPICS

●テレビ広報番組「のびのびシティさいたま市」で市内の文化財が取り上げられました

タイトル：のびのびシティさいたま市 市民の大切な宝物！～市の文化財・受け継ぎたい技術～

放送局：テレビ埼玉(YouTubeでも視聴できます)

放送内容：・浦和博物館にて、人面画土器や鳳翔閣などの展示の学芸員による解説。

- ・吉田宮司による中山神社の旧本殿の見学・解説。
- ・漆刷毛師の十世 泉清吉さんへのインタビューで漆刷毛を解説。

●さいたま市最新出土品展2021を開催しました

最新出土品展では、さいたま市誕生20周年を記念し20年間の発掘調査成果として代表的な出土品や、国指定史跡「真福寺貝塚」で出土したミミズク土偶など令和2年度に発掘した出土品を中心に約200点展示しました。また展示期間中には、埋蔵文化財発掘調査や市内遺跡、及び出土遺物への理解をさらに深めていただくため、実際に発掘調査を実施した担当者が詳しく説明を行う、さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会を開催しました。

名 称	期間・会場
最新出土品展2021	9月7日(火)～9月20日(月) さいたま市立博物館 特別展示室 10月5日(火)～10月24日(日) 東浦和図書館 展示スペース 11月6日(土)～11月19日(金) コクーンシティ2 3階
さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会	9月11日(土) さいたま市青少年宇宙科学館 青少年ホール

●国指定史跡「真福寺貝塚」の発掘調査現地見学会を開催しました

実施日：令和3年10月23日(土)

時 間：1回目 10時から11時30分

2回目 13時30分から15時

場 所：史跡真福寺貝塚 発掘調査現場

内 容：発掘調査現場を見学しながら、泥炭層遺跡に向かう斜面に幾重にも折り重なる土の層とそこに介在する土器のまとまりや斜面際に形成された貝塚などについて、調査担当者が解説しました。

参加者：182名



▲「真福寺貝塚」発掘調査現地見学会のようす



▲角落板を落とすようす

●国指定史跡「見沼通船堀」現地見学会を開催しました

実施日：令和3年11月27日(土)

時 間：1回目 10時から11時30分

2回目 13時30分から15時

場 所：見沼通船堀公園～見沼通船堀西縁～鈴木家住宅～見沼通船堀東縁一の関

内 容：見沼通船堀公園を出発し、途中、当課の学芸員と土木技師の解説、再整備工事現場の見学、「かくおとし落」持ち上げ体験等を交えながら、見沼通船堀に関する江戸の技術と歴史を探りました。

参加者：41名

お知らせ

□国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」で草焼きを実施します

田島ヶ原サクラソウ自生地では、毎年1月にオギやヨシ等の枯草を焼却する草焼きを実施しています。枯草を焼くことによって地面に陽光があたり、サクラソウの芽吹きを助けます。令和4年は、下記の日程で実施します。

実施日：令和4年1月12日(水)【予定】

時間：9時頃から16時頃まで

※天候により、翌日以降へ延期になる場合があります。

※実施中に天候が変化した場合、中断して翌日以降に再実施することがあります。

見学について：

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、発熱等の症状がある方は見学をお控えくださいますようお願いいたします。お越しの際は、マスクの着用、咳エチケット、人との距離の確保等の感染症対策をお願いいたします。



▲昨年の草焼きの様子

□田島ヶ原サクラソウ自生地 特別天然記念物国指定70年記念パネル展

令和4年(2022年)は田島ヶ原サクラソウ自生地が国特別天然記念物に指定されて70年になります。これを記念して、自生地の大切さや魅力を確認しながら、これまでの保全の歩みを振り返り、これからの保全に向け、自生地が今直面している危機や解決のための取組を紹介する記念事業を行います。

会場	期間・時間
桜図書館2階 展示スペース	令和4年2月8日(火)～2月27日(日) 火曜日～金曜日：9時～20時 土曜日・日曜日・祝日：9時～18時 月曜日は休館日
中央図書館 イベントルーム前廊下	令和4年3月8日(火)～4月3日(日) 月曜日～金曜日：9時～21時 土曜日・日曜日・祝日：9時～18時 第1及び第3月曜日は休館日